

飛行船

令和5年 秋号
王寺工業高等学校
文化図書委員会広報係発

ニュース!

幼稚園、義務教育学校と連携がある王寺町立図書館ですが、今回高校ともぜひ連携を！とお話をいただき、希望者は本校在学中、王寺町立図書館の本はもちろんのこと電子書籍図書館の利用が可能になりました！
王寺町立図書館の学習室も利用できますよ。



現在、県立高校の共通電子図書館設立に向けての動きもあります。ひとり1台端末の時代、上手に使いこなして、文明の利器を味方につけよう！

写真部×図書室 コラボしました！



感じたことを文章で表す読書感想文、絵で表す読書感想画がありますが、今回写真で表してほしい、と写真部さんをお願いしました。

快く引き受けてくれて、部員のみなさんで選んでくれた谷川俊太郎さんの詩「ふるさと」(『魂のいちばんおいしいところ』より)から感じたことを1枚の写真で表してくれました。職員室前に展示しているので是非見てくださいね。

みなさんはこの詩からどんな風景を思い浮かべますか？

写真を撮影するにあたって部員同士でのそれぞれの「ふるさと」の話で盛り上がっていました。
Byとても優しい部長

楽しくコラボしてくれてありがとうございました！

奈良商工高校と、図書委員オンライン交流！



9月27日放課後、奈良商工高校図書委員会からのお誘いに応じて、オンライン交流会が実現しました！

自己紹介からのお互いのオススメ本紹介。最初は緊張気味でしたが、好きなアニメ話で盛り上がり、楽しい時間をすごすことができました。最後は王工生らしくしっかり挨拶でしめくりました！第2回が実現するといいですね。

😊 スクールカウンセラー 田中先生の巻

『手紙』 / 東野圭吾 / 文春文庫

普段本を読まない私ですが、『手紙』を映画で知り、ひきこまれました。犯罪は悪いことだけど、それには理由があって…。一方、犯罪者の家族は差別にあい続けます。苦しみながらもどう生きていくか、犯罪者との関係はどうなっていくのか。現実の残酷さも含め、心を動かされる作品でした。

😊 竹野先生の巻 取材：1年 S

『永遠の0 (ゼロ)』 / 百田尚樹 / 講談社文庫

第二次世界大戦時における特攻隊員を題材にした作品です。日本兵の心情を描くことで戦争の悲惨さを伝えながら、特攻で亡くなっていった隊員の家族の心情も描いてくれている作品です。

😊 宮井先生の巻 取材：2年 N

『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド』

N 「宮井先生と図書室の思い出は？」 / 村上春樹 / 新潮文庫

先生「司書の先生と仲良くなったこと」

N 「この本の好きなところは？」

先生「主人公がハードボイルドでかっこいいところ」

😊 井上雄大先生の巻 取材：3年 Y

『白夜行』 / 東野圭吾 / 集英社文庫

- ・人生で一番面白かった本です！
- ・864ページと長いですが、その分世界観が入ってきて、最後のページは衝撃です。
- ・時間があるときに読んでください！



『四畳半タイムマシンブルース』

／森見登美彦（原案上田誠）／KADOKAWA

- ・よくあるタイムマシンものだと思うことなかれ、タイムトラベルを繰り返すことで伏線を回収していく大ボリュームのSFである。
- ・本は厚いが、それ以上の体験をさせてくれる本である。
- ・ギャグも交えつつ、しっかりとSFもしつつ、四畳半ワールドを逸脱しすぎていない、森見ファンもSFファンも、本好きも全員楽しめる本。

(3年 Y)

『あるかしら書店』／ヨシタケシンスケ／ポプラ社

とある本屋にいろんな人が本を探しに来て、普通ではないような本が出てくるので次に出てくる本がどんな本なのかが気になります。

またこの本は、あまり本を読まない人でも気軽に読めると思います。

(3年 U)

『聲の形』／大今良時／講談社（コミックプラス）

【学習面】イジメのひどさが分かります。

【娯楽】最初はムカつきますが、話が長くにつれてスカっとする場面も増えてくるのでオススメです。

(2年 N)

『三日間の幸福』／三秋縋／メディアワークス文庫

最初に出てきた何気ない言葉が後から関係して出てくるところがおもしろく、登場人物の言った言葉に考えさせられて、新しい考え方が生まれてくるところがおすすめポイントです。

(1年 U)

『キケン』／有川浩／新潮社

成南電気工科大学機械制御研究部、略称「機研」その黄金期、機研は正しく危険人物に率いられた「危険」集団であった。

この本は、そんな機研の黄金時代の話が複数集録されており、あまり本を読まない人にもおすすめできる、コメディータッチで読みやすい本です。

(1年 S)

『櫻子さんの足下には死体が埋まっている』

／太田紫織／角川文庫

北海道が舞台になっていて、主人公と櫻子さんがめぐりあう事件を解決しているところがおすすめポイントです。

殺人事件ではあるが、怖くない話なので気軽に読めます。(2年 I)

図書委員、先生方が勧めてくれた本(雑誌)は図書室にあります♪



川島先生の巻 取材：1年 K

K 「お気に入りの本は？」

先生「『トランジスタ技術Jr.』」

K 「どんなところがおすすめ？」

先生「中学校でも高校でもわかる電子回路」

K 「この本を読み始めた頃は？」

先生「高校の先生になってから、藤田先生に勧められた」

K 「図書館の思い出は？」

先生「国立国会図書館関西館（京都）。18歳以上は日本の本すべてを見ることができる。本をコピーして持って帰れるし、食堂もコンピューターもある。思い出というか、オススメ！」

辻先生も、偶然同じ『トランジスタ技術Jr.』について！



辻先生の巻 取材：2年 O

先生は学生時代から夏休みの間に毎日来て、午前中に面接の練習、午後には図書室で勉強と、頑張っていたそうです。以前図書室にあったという工業新聞に載っている工業高校などを見て、自分自身が将来どのように生徒を教えるかを想像していたそうです。

図書室で本は読んでいずとも、先生の夢を叶えようとするし続ける胆力と自分の未来をしっかりと考える計画性には学ぶものがあります。図書室では本を読むべきという事ではなく、様々な使用方法があるという例を示していると思います。



今井先生の巻 取材：3年 N

『斜陽』／太宰治／新潮文庫

第二次世界大戦後、貴族制度廃止により没落貴族となった母と子供たちの生き様を描いた太宰の代表作である。

高校1年の春、母の次の2つの台詞により、本棚にあったこの文庫本を、下校後3日かけて読んだ覚えがある。

母のその台詞の1つめ、

「冒頭部の言葉の言い回しが、とても美しい」

2つめ、

「没落していく上流階級の人々のことを当時『斜陽族』と呼んだり、太宰の生家は『斜陽館』と名付けられたりしたのよ」

どう？興味そそられませんか？因みにその素敵な冒頭部は、「朝、食堂でスープを一さじ、すっと吸ってお母さまが～」なんとも上品な!! 貴族社会を感じる!!